いにしえに想いを馳せる楽しみ

綾の会

あなたは、この上福岡にいにしえから伝わる機織りの文化をご存知でしょうか。

江戸の末期、日出間寅次郎により機織り工場が建てられました。その後、次々と機屋ができ、最盛期には 19 軒もの機屋が綿織物を中心に絹綿交織、ジャカード織などの織物を製造していました。

明治 20 年代にはジャガード織機を備えた機工場が登場し、職工を雇って経営をする機屋もあったそうです。また、明治後期には「綾姫織」という独自の製品が作られ、売り出されていたそうです。

その後、昭和初期まで営業を続けていましたが、第三次世界大戦とともに機屋は廃業に追い込まれ、機織りの機も農家の納屋でひっそりと眠りにつくことになりました。今では現存する一部がふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館で展示されています。

その後、1988 年より現存する古文書、縞見本や当時を知る人の貴重な話などを手掛かりに、当時の機織りを再現しようと「綾の会」が組織されたそうです。当時の縞見本を基に草木染、機織りまで、全工程の再現を試みています。

3 年に 1 回開催される「綾の会作品展」で、縞見本を基に作られた再現品や綾の会オリジナルのタペストリー、反物などを観ることができます。2017 年で結成 30 周年を迎えた「綾の会」。機織りの文化を後世に伝えたいとの思いで活動を続けています。

Data

〒356-0022
ふじみ野市長宮 1-2-11
☎ 049-261-6065
（上福岡歴史民俗資料館内）

文：川名 美津雄
イラスト：増子 小雪（小 4）